

和歌山大学学生自主創造支援部門（クリエ） クリエプロジェクト
＜2023年度ミッション成果報告書＞

プロジェクト名：服&本の交換プロジェクト 「GREEN CLOSET」

ミッション名：服&本の交換イベント開催による、「ファッション・スワップ」の認知度向上と、環境負荷および学生の経済的負担の軽減

ミッションメンバー： 経済学部3年堀口智恵美
経済学部2年宮崎一輝
経済学部1年中瀬遥

キーワード：SDGs リユース ファッション・スワップ サステナブル・ファッション 服&本の交換会

1 背景と目的

ファッションは多くの人にとって需要のあるものであるが、実際には服の約7割がゴミとして廃棄されている現実が存在する。廃棄されずに国外に輸出されたとしても、それらの古着が輸入国で溢れかえり環境や産業に悪影響を及ぼすこともある。

このような問題を解決するためにも、我々は本・服の交換会（ファッション・スワップ）を行うことを考えた。

2 活動内容

2.1.1 交換券の導入

交換会を行うにあたり、我々は服・本の交換の間に交換券を導入することにした。交換券の導入は、ただ服・本を持ってきた当日以外での交換を可能にするだけではなく、交換の権利を第三者に譲渡を可能にすることも目的としている。

交換権利の譲渡であるが、一般的に交換会では服・本を持ってこなければ参加することはできない。これによって、イベント当日の飛び入り参加が難しくなりモノの移動が滞っているのが現状である。それに対して、我々は交換券を用いることによって権利を実際に目に見える形にした。交換券という形にすることによって、服・本を寄付した人、つまり交換券が必要ない人の交換権利をこちらで管理することを可能にしたのである。これにより、交換会当日に服・本を持ってきていない人でも服・本を持っていくことが可能になり、モノの移動が増え、必要なモノが必要なだけ人に届きやすくなるのである。

2.1.2 今年度の活動

今年度は、夏の交換会（7/31～8/4）、和大祭（11/18～19）、みそのマルシェ（12/16）、和歌山市主催本の交換会（1/27）の計9日間活動を行った。

初めての活動である夏の交換会では、活動以前に我々個人で集めた服・本があったため在庫数は出庫数をかなり上回る結果になった。しかし、活動当初は利用してくれる学生数は少なかったが、開催3日後には利用する学生数が増加していった。興味本位で見学に来てくれた学生もいたが、我々が導入している交換券を利用して服・本を持って行ってもらうことも

あった。(表1参照)

次に、和太祭での活動である。和太祭前の和太フェスタでの宣伝や第2回目の活動ということもあり、第1回の活動に比べ初日から利用してくれる方が多かった(表2参照)。学外の方も参加できる初のイベントであり不安もあったが、和太フェスタ時に興味を持ってくれた和太生のOBの方々が参加してくれたこともあり無事終わることができた。

第3回目の活動は、みその商店街で行われているみそのマルシェに出店した。この活動では、この活動が事前に認知してもらう必要があることを再認識した。我々も事前にInstagramなどのSNSを利用して広報活動は行っていたが、当日は服・本を持ってきてくれた人が少なかったのが現状であった。しかし、我々が導入している交換券によって、当日この活動を知った人が「持っていく」だけでも参加してくれるようになり、モノの移動は問題なく行うことができた(表3参照)。

今年度最後の活動は、和歌山市の主催で行われた本の交換会である。本の交換会であるため、我々も服は持たず本のみで参加した。今までのイベントは認知の必要性もあり持ってくる量はそこまで多くなかったが、本イベントの参加者は本交換会であることを認知して参加していたため、我々も交換という形を問題なく行うことができた(表4参照)。

日付	A+B統計	入 (I)			出 (O)			交換リンケージ (異なる日)				
		小計	衣	本	小計	衣	本	小計	衣→衣	衣→本	本→衣	本→本
7月31日	87	87	37	50	0	0	0	0				
8月1日	19	19	17	2	0	0	0	0				
8月2日	20	15	3	12	5	0	5	1				1
8月3日	21	11	1	10	10	2	8	6			2	4
8月4日	41	28	3	25	13	5	8	8	2	2	1	3
イベント計	188	160	61	99	28	7	21	15	2	2	3	8
次へ		入-出			54	78						

表1 夏の交換会 基礎統計表

日付	A+B統計	入 (I)			出 (O)			交換リンケージ (異なる日)				
		小計	衣	本	小計	衣	本	小計	衣→衣	衣→本	本→衣	本→本
引き継ぎ		入-出	54	78				0				
11月18日	32	15	3	12	17	4	13	5	2	3		
11月19日	87	54	30	24	33	17	16	11		1	5	5
イベント計	119	69	33	36	50	21	29	16	2	4	5	5
次へ		入-出			66	85						

表2 和太祭 基礎統計表

日付	A+B統計	入 (I)			出 (O)			交換リンケージ (異なる日)				
		小計	衣	本	小計	衣	本	小計	衣→衣	衣→本	本→衣	本→本
引き継ぎ		入-出	66	85				0				
12月16日	37	10	9	1	27	16	11	22			14	8
イベント計	37	10	9	1	27	16	11	22	0	0	14	8
次へ		入-出			59	75						

表3 みそのマルシェ 基礎統計表

日付	A+B統計	入 (I)			出 (O)			交換リンケージ (異なる日)				
		小計	衣	本	小計	衣	本	小計	衣→衣	衣→本	本→衣	本→本
引き継ぎ		入→出	59	75				0				
1月27日	52	31	0	31	21	0	21	9				9
イベント計	52	31	0	31	21	0	21	9	0	0	0	9
次へ					入→出	59	85					

表 4 和歌山市主催 本の交換会 基礎統計表

3 活動の成果や学んだこと

3.1.1 本活動による環境負荷の軽減

今年度は計4回の活動を行ったが、我々の活動によって出て行った本・服の数は82冊、服の数は44着であった。これを環境省が出している本・服に対する環境負荷で換算していく¹。

本の種類	頁数	1冊あたりのCO2排出量参照値 (gCO2/冊)		
		用途	1色刷り	4色刷り
雑誌	280	カーボン・ワレット用		
		イベント用	6.3 gCO2/冊	25.2 gCO2/冊
書籍 A 5 版	260	カーボン・ワレット用		
		イベント用	3.0 gCO2/冊	11.9 gCO2/冊
書籍 A 6 版	260	カーボン・ワレット用		
		イベント用	1.5gCO2/冊	5.9gCO2/冊

図 5 本1冊当たりの環境負荷

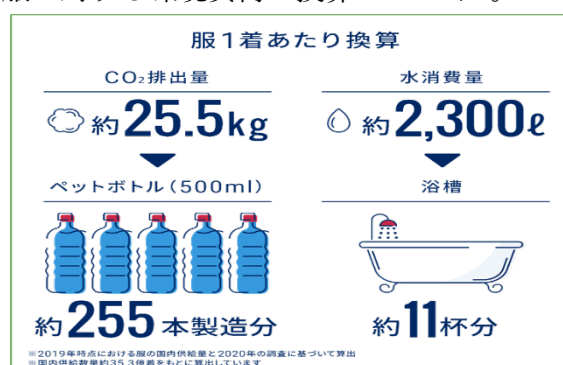


図 6 服1着当たりの環境負荷

上図を参考に(本は書籍 A4 版とする)計算する。すると、本によるCO₂排出量は123g削減することができた。これは、約ドライヤー1回分のCO₂排出量である。また、服ではCO₂排出量は1122kg、水消費量は101200Lもの環境負荷を削減することができた。これはペットボトル(500ml)で換算すると、11220本分の製造CO₂負荷、202400本分の水環境負荷の軽減である。

3.1.2 交換券の必要性

今年度の活動で、交換券を利用して出て行った本・服の数は62点で、全体で交換され出て行った服・本・服の数は126点であった。このことから、交換券の価値を交換券が利用された割合として考えると、 $62/126 \times 100 = \text{約} 49\%$ だということが分かる。つまり、交換券が導入されていることによって、本活動の利用数が倍程度にまでなっているのである。このことから、交換券は活動にとって必要であると考えた。

¹図5 環境省「本(書籍・雑誌・漫画等)の計算方法について(案)」

https://www.env.go.jp/council/37ghg-mieruka/y372-02/mat01_2.pdf

図6 環境省「SUSTAINABLE FASHION これからのファッションを持続可能に」

https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/

3.1.3 学んだこと

今年度の活動によって学んだ最も重要な点は、認知度の重要性である。数日間の続けての開催であれば、初めの数日で活動を知り後日活動に参加してくれることはあった。しかし、1日のみの開催では服・本を持ってきてくれる人は少なく、広報活動によって人々に我々の活動を認知してもらうことの重要性を再認識することができた。

4 今後の展開

今年度の活動ではインスタグラムを活用し広報活動を行っていたが、事前に我々のアカウントをフォローする必要があることにより、認知してもらうには限界があった。その為、来年度ではTikTokを活用することで我々の活動を知らない人でも活動を見る機会を得ることができるようし、我々の活動をより多くの人に知ってもらいたい。

また、今年度はイベントでの参加が主であり、開催頻度が不定期であった。これでは参加するのが難しくなるため、来年度は定期化することで安定した参加者数を得たいと考えている。また、リユースボックスを設置することで日時間問わずいつでも服・本を投函できるようにしたいとも考えている。



また、リユースボックス自体はすでに作成し終えている。その為、設置の許可が取れ次第すぐに稼働していきたいと考える。

5 まとめ

本活動は今年度が初めてであったが、学内外問わず活動に参加し多くの服・本の交換を行うことができた。我々が独自で採用した交換券システムによって、服・本の交換会の障壁である「活動に参加するのが難しい」を解消し、当日にこの活動を知った人でも「持っていく」ことで我々の活動に参加できるようになる。このようにして、交換活動を促進するだけでなく、ファッション・スワップの認知向上にも繋がった。今年度の活動を活かしていきながら、来年度も活動に励んでいきたいと考える。